

1 学校教育目標

生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」と校訓「創造」「躍動」「貢献」を尊び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

60数年にわたって築かれた伝統を継承するとともに、未来に向けて更なる学校の活性化を図る。そのために、佐賀学園では、生徒一人ひとりの人間力の向上を真ん中に据えた教育を実践し、生徒一人ひとりに寄り添いながら、次の3つの心を育てていく。

- ・自分の未来＝夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を高めていく心
 - ・基本的生活習慣・社会的マナー・服装等を正し、自らを律する心
 - ・人との絆を大切にし、人の心の痛みや苦しみを思いやれる優しい心
- 本年度のキャッチフレーズとして「心一つにみんなで創る佐賀学園」を掲げ、生徒一人ひとりの「人間力」が高まり、それが大きなまとまりとなって、佐賀学園が大きく飛躍することを期す。

◎日々の取組み
(授業)教職員が日々自己研鑽に努め、授業のねらいを定め、板書計画や発問等を準備した上で、分かる授業・生徒を惹きつける授業を実践する。電子黒板も積極的に活用し、令和4年度からの「生徒一人一台タブレット導入」に向けて、新時代の教育の在るべき姿を模索する。
(部活動)部活動加入率を高め、その充実・強化について更に力を注ぐ。文化部・運動部を含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを目指す。更なる高みを目指し努力する姿勢こそ生きる力につながることを伝えていく。
(人権教育)人権・同和教育の充実を図り、差別を許さない心や、障がいのある方・在留外国人・LGBTなど様々な人々との共生を受け容れる心を育んでいく。
(キャリアデザイン)週1時間の「総合的な探究の時間」において、生徒一人ひとりが将来の自分の生き方をデザインできる力を育む。学年ごとに、進路ガイダンス、大学・企業訪問、産業界の第一線で活躍する方の講話、インターンシップなどを年間計画に織り込み、様々な実践に取り組む。
(SNSに関する指導)生徒を守るために、ネット社会の危険を周知し、SNSの利用について常に注意喚起をする。不適切な情報発信をすることで人を傷つけ、逆に、自分が誹謗中傷を受けることや、誤って出会い系や犯罪に誘うサイトなどにつながり、大きな被害を受けることもあり得ると認識させる。
(英語教育)本年度から、全クラス週1時間はALTの授業を受けられるようにする。中学生や地域の方向けに、本校職員による佐賀学園英会話スクール(仮称)を開講する。

4 前年度の成果と課題

・電子黒板の活用は進み、教職員の授業力と生徒たちの授業態度は向上した。今後は、令和4年度からのタブレット導入に向けて、更に研修をふまえて授業力向上を図る。
(部活動)部活動加入率を高め、看護学科等の医療関係への進学、佐賀銀行等事務職への就職など、良い成果があげられた。進学面での小論文指導・面接指導など推薦入試対策や、成績高等部を中心とした共通テスト対策の更なる充実が課題である。生徒の進路意識高揚のため、学年主任主導で、総合的な探究の時間(「キャリアデザインタイム」)の充実を図ることも課題である。
(進路結果)一定の成果は出たものの、上位層の生徒を伸ばすこと併せて更に基礎学力の充実を図ることが課題である。トトレの効果的運用、部活動とのバランスをとった上での長期休みの補習の充実を図る必要がある。
(部活動)については、前年度はコロナの影響により、全国大会等の中止が相次ぎ、ハレー一部男子、剣道部女子、吹奏楽部の活躍はあったものの、全般的に不完全燃焼の部が多かった。本年度は活動の充実を図り、更なる成果を求めたい。
(キャリア教育)の面では、学年で取り組めた「キャリア・デザイン」が充実し、進路指導部のガイダンスも充実してきた。
(SNS)に係る生徒指導事案、生徒同士が心ない発言で傷つけ合うような事案が増えたと思われる。今後は、人権尊重や豊かな心の育成という観点からの教育活動の充実を図ると共に、人間関係を築き調整する力の育成も課題である。また、不登校傾向の生徒の学級復帰支援に係る取組みも課題となった。
(図書館利活用の促進を図り、自習室としての活用、更なる読書活動を進め、朝の読書を定着させることが課題である。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・本年度のキャッチフレーズ及び重点目標(「人間力の向上」)を生徒・保護者に周知することができたか。 ・本年度の重点目標にある3つの心を生徒に浸透させることができたか。 ・本年度の重点目標の「日々の取組み」について、職員がよく取組み、成果を挙げているか。	・学校評価アンケートにより、本年度の重点目標(「人間力の向上」)を知っている生徒・保護者の割合を40%以上とする。(昨年度:生徒16.9%、保護者23.2%) ・SNSを使った問題事案(他者への誹謗中傷)や人権侵害にあたる発言をするといった事案を発生させなかったか。 ・日々の取組みについて、担当分掌等が主体的に取組み、職員全体が中学校説明会やオープンスクールにおいて、十分にそれらをふまえて学校PRを行い、生徒募集に反映できたか。	・全校集会で生徒に対して、学校通信を通して保護者にも、本年度のキャッチフレーズや重点目標及び3つの心を随時伝える。 ・学校の教育活動を「メンバー」で示したグランドデザインを完成させる。 ・「日々の取組み」について、校長は担当分掌の部長や学年主任と協議し、進捗状況を確認する。 ・校長は授業見学をし、それを通した職員との面談の機会を増やす。また、研究授業の実施や教科ごとの指導検討会等を開くよう促す。 ・校長は、日常の部活動を観察することに心がける。 ・外部機関や地域との連携を積極的に図る。また、校長は担当分掌や学年が動きやすいように情報を収集し提供する。	C	・グランドデザインはまとまった尾で、来年度はさらにブラッシュアップする。 ・重点目標を知っている生徒(23%)、保護者(20%)の率は目標達成できず、今後は特に「人間力の向上」の点を強調し、浸透させたい。 ・「日々の取組み」の中では、「SNS」に関する指導に大きな課題を残した。しかし、「英語教育」においては、地域に開かれた「大人の英会話」講座を実践できたのがよかった。 ・一人一台のタブレットの導入、進路効果となる充実に向けて「日々の取組み」をさらに充実させていく。
	生徒募集(広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生及び保護者、中学校に正しく伝えられたか。 ・受験者増加につながる募集活動が、全職員、学校をあげて行えたか。 ・本校の取り組み姿勢に共感していたか。	・受験者数、推薦110名、専願70名、併願80名を目標とし、定員260名を確保する。 ・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVD、ホームページで本校の良さを認知させ、親近感を持たせる。	・募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に「選んでもらえる」斬新な戦略を練る。 ・進路実績、検定取得実績、基礎・基本を重視した教育プログラム、活発な部活動の実績をアピールする。 ・中学生の情報収集活動を行い、勧誘体制を強化する。 ・国の就学支援金制度、本校の優遇制度を周知するとともに有効活用する。	B	・志願者数が前年比45名増の1180名で県内私立6校中2番目であった。特技要学生制度、推薦、専願優遇制度の周知が徹底しており、希望者が安定してきた。 ・令和5年度からの学科・コースの改編の周知を図り、OS等の諸事業への参加依頼をさらに強化し定員充足を課題とする。 ・広報活動との一体化が更に求められる。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・コミュニケーション能力の更なる向上を図る。 ・各自が担当業務の処理能力向上を図る。	・来校者や架電者の立場に立ち、正確かつ迅速な対応を心掛ける。 ・優先順位、時間管理を意識した業務遂行を実践する。 ・気持ちの良い挨拶の励行を継続する。	B	・お客様や電話での正確かつ迅速な対応、また気持ちの良い挨拶は励行できている。 ・正しい敬語使用については、習得へ向け更なる意識付けを図っていく。 ・事務職員の新型コロナウイルス感染等不測の事態に対応できるよう、業務のフォロー体制強化を継続する。
	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が豊富で、わかりやすい授業ができたか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加し、指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各教科分掌で企画する。 ・教育センター研修講座に3年間で1回以上年間15名以上参加する。 ・各教科で所定の研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。 ・教科指導、進路指導、生徒指導などの領域で先進的な取り組みをしている学校を訪問する。	B	・計画的に研究授業を行う。 ・タブレットの有効的な活用方法を考える。 ・若手教員の授業力、生徒対応力の向上が課題である。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立 ・「分かる授業」・「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・電子黒板を積極的に利用する。 ・各教科会を機能させ「分かる授業」・「生徒を惹きつける授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。 ・日常的に課題を渡し、評価する。 ・生徒一人ひとりに寄り添った指導を行う。	B	・電子黒板とタブレットを有効活用し、よりわかる授業の実践を行い、生徒からの授業評価を高める。 ・もう少し家庭学習の充実へ目を向けること一教科から宿題を出すことや、部活動指導教員が学力を重視する意識が求められる。
	進路指導	・各学年における進路ガイダンス等がキャリア教育に活かされ、進路意識が具体的な行動に反映されたか。 ・進路を実現できるための基礎学力がついたか。 ・生徒の覚悟ある進路実現に繋がったか。	・学年に応じた充実した進路ガイダンスを計画、実施する。 ・受験に対応した学力の定着と校内学力判定テストや基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・就職内定率100%、進学合格率アップを目指す。	・大学進学希望者に対する長期休業中のセミナーの開催や個別指導、また、基礎学力定着のための補習の実施による学力の定着を目指す。 ・3年生に対する総体後の勉強会、夏季休業中の進学対策と就職対策の学習会や小論文・志望理由書、書類の書き方等の指導を行う。 ・各学年に対する進路講話、生徒のデータの分析、入試や企業の研究を行い、進路指導部と学年間で進路情報を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、キャリアデザインタイムを計画する。	B	・就職希望者の1次募集での内定率が高く、年内に9割を超えた。以前のように安易に就職する生徒はいなくなってきたが、数名の生徒が3学期になり進路変更した。 ・国公立の合格が1名(3/11現在)だった。普通科の生徒の大学進学率は増加したが、情・商も含め国公立・有名私立大学への挑戦がなかった。志望校の決定については、早期より生徒の状況を把握し、志望校の選択やどのように受験するか等の担任からの助言が必要。また、成績の生徒の国公立大学への総合型や学校推薦型で受験する生徒については、準備が遅かった。7月には取り組めるよう、志望校や受験方法を決定すべき。 ・私大の学校推薦型・総合型選抜での基礎学力試験や西九州大の一般選抜の学科試験の対応が不十分。教員自身が実際に問題を解いた上で私立大一般入試を意識した指導をする体制ができないといけない。各教科での試験問題の研究、それらを意識した指導を普段の授業から取り入れる。
	生徒指導	・交通ルール・マナーは守られているか。 ・公共利用マナーの意識向上に努めてめているか。 ・正しい制服着用はできているか。 ・思いやりの心を持ち、自分を大事にしているか。	・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他者に対する思いやりの心を育む。 ・制服を正しく着用する。 ・SNSによるトラブルがないように注意する。SNSの利用については、23時から6時まででは控える。	・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。加害事故0を目指す。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・全校集会、学年集会を通じて、内面的指導を充実させる。 ・SNS利用ルールを守り、不必要な使用を控えさせる。	B	・自転車事故は8件で前年より減った。 ・警察や保護者、学校への連絡等スピーディーに行われ、その後の対応が良かった。 ・SNS関係では、まだまだトラブルがある。外部委託での事前指導等によりその効果は少しずつ表れてきている。ネットハロール事案は減少した。生徒に対して、人権を守る、人を思いやるといった観点からの啓発を図らねばならない。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・自ら清掃活動に参加しているか。 ・感染症対策に各自取り組めているか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化意識を向上させる。 ・校内の感染症対策用品を充実させる。	・美化コンクールを実施する。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。 ・全員清掃の時間を設ける。 ・清掃用具の不足を減らし、清掃する環境を整える。 ・生徒保健委員会の活動として校内のアルコール等を点検、補充する。	B	・美化コンクールの充実を図る。 ・生徒保健委員会活動は行事ごとに消毒や石けん補充するなど、自主的に動いてくれた。 ・コロナ禍ということもあり、感染症対策(消毒)を行うことが清掃に繋がっているように感じた。このまま清掃に対する意識を定着させたい。 ・コロナの情報が養護教諭に一本化され、機動的に動けるようになったのは成果であった。コロナ感染防止対策なども含め保健部全体としての取り組みが課題である。
特定課題	課外活動(部活動)	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を身に付け、人間性を高めることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任、副担任、顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。	・文武両道が実践できるように部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。	A	・数多くの優勝旗を獲得でき活発である。さらに、九州、全国大会で活躍できるよう環境づくりが必要と思われる。 ・さらなる活性化を狙い学校を上げて応援できるものとした。 ・5部以上が県レベルで1回は優勝するという目標は達成し、飛込み、卓球など社会体育でも戦績が挙げがった。写真部、ゲームクリエイター部の活動も充実してきた。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室登校の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、友人関係を築き、所属学級へ戻ることができる。 ・教育相談室での学習や学校行事に積極的に取り組み、達成感を得る	・職員の連携を密にし、保護者との連携を図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようにサポートする。 ・Q-Uを活用し生徒が安心して過ごせる学級作りを行うためのサポートを行う。 ・学級担任・教科担当者と連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の向上を図る。 ・学校行事では相談室独自で参加できるような内容を企画する。	A	・各学年、新製の相談室利用生徒が少なく、学年・学級の対応が良かったと思われるが、相談室登校にも至らず、転退学となった生徒もいる。 ・カウンセリングは中学生の利用も多く、緊急時に予約が取れずカウンセラーに電話で対応していただかなければならないような状況もあった。予約の調整工夫が必要である。 ・担任向けにQ-UTSについて研修を行えたのは良かった。 ・進路予定・課題表を使用したことで授業中の生徒の課題に対する取り組みは良くなっているが、個別指導については課題が残る。 ・学園祭では、電子黒板用のモップ製作を行った。相談室の生徒達も学校やクラスに貢献できていると感じられたと思う。来年度も引き続き取り組んでいきたい。 ・今年度は職員研修を行えなかったのが残念である。来年度は生徒の特性に対応できるような研修を計画したい。
	マナー指導	・校内外でのマナー、交通マナー、挨拶などの規則、ルールが守られているか。	・進路決定や外部からの見た生徒の立ち振る舞いのマナー向上を目的とする。	・日頃から目配り、気配りをしながら注意指導し、金曜日に行うマナー指導を通し体得させる。	C	・依然携帯電話の使用で指導される生徒がいるので今後の課題である。 ・生徒のマナーはよくなっているが、職員間の意識・指導の統一が求められる。今後は生徒たちに自分達自身が学校の広告塔であるという意識を持たせることが大切である。
	生徒会活動	・校内外の問題を自主的に考え行動し社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。	・生徒会での議論を増やし、関連分掌・学年・学級の垣根を越えて連携を図る。	A	・生徒主体で考え行動できるように徐々になっている。新体制になり、さらに積極的になりつつある。学校を活性化するための起爆剤となるようにしたい。 ・振興会や同窓会と連携した「花いっぱい運動」を充実させたい。
キャリア教育・トトレ		・トトレの学習内容を理解させて、生徒に基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通じて、自分の将来について真剣に考え、個々の適性に合った進路選択や実現を目指した取り組みができたか。	・トトレ及び基礎力診断テストを活用して、GTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。 ・生徒への定期的な面接や進路ガイダンス、諸検査を通して自己の適性を知り、日常的教育活動の中で自己表現や礼儀作法を身につけることを目標とする。 ・3年次の進路決定を目指した取り組みの際には個々にあった適切な面談を行い、卒業後の進路変更や早期離職につながらないようにすることを目標とする。	・トトレの教材作成から教科毎にねらいを設定し、定着させたい学習内容を常に精査し、学力向上に直結する課題作成に取り組む。 ・全職員が生徒に学習内容を定着するために予習を行い、より効果的なフォローアップが出る体制づくりに取り組む。 ・確認テストや基礎力診断テストを分析しながら、長期休業中や放課後の学習会を通して、学力向上につなげる。 ・面接における質問内容や実施方法について、職員研修等を実施しながら、生徒への適切な指導や助言内容の充実を図りたい。	A	・トトレ教材のさらなる工夫や問題の難易度も再検討する。 ・朝読書の時間との連携をさらに図っていくことが課題である。 ・長期休業時の参加者数の増加、指導内容の検討を教科ごとに行う。 ・入学試験や就職試験にに対応できる学力を入学時から意識させ意欲的に取り組ませる。 ・学年主体でキャリア教育に取り組む体制はかなりできてきた。

6 総合評価

・“授業の充実”の面では、電子黒板の活用が増え、職員の指導力は確実に向上し、生徒の授業態度も更に向上した。
・本校のPR材料である部活動は、吹奏楽、野球、ハレー男、ハレー女、サッカー、ライフルが県レベルで優勝(ライフルは九州大会)するという快挙を達成し、剣道部女子も県レベルで準優勝3回であった。また、飛込み、卓球など社会体育でも戦績が挙げがった。写真部、ゲームクリエイター部の活動も充実し、珠算・電卓部も商業技術競技会で優勝するなど、充実した1年だった。
・本年度の進路実現については、就職者の指導については一定の成果が出せた。佐賀銀行、JA、小糸製作所、サムコ、竹下製菓など県内の優良企業の合格を確保できたのも評価できる。ただ、進学指導においては、国公立大学合格が伸びず、私大一般入試対応に課題を残した。
・英語科の「大人の英会話」だけでなく、商業科の「佐学マルシェ」など地域と連携して取り組めてきたのは成果だった。次年度も地域との連携・交流を図る取り組みを充実させたい。
・キャリア教育の面では、学年で取り組めた「キャリア・デザイン」が充実し、進路指導部のガイダンスも充実してきた。
・SNSの指導と人権教育の充実、この関連を図らねばならなかったという点が反省である。

7 次年度への課題・改善策

- ・生徒募集と広報活動(PR活動充実・発信力強化)の一体化・令和5年度の普通科コース改編の周知・地域連携・地域交流事業の充実
- ・1人1台タブレット導入・分かりやすい授業の実践(できるところから活用)に取組み、同時に保育についても心をつく
- ・部活動の充実・高いレベルでの文武両道が図れるよう、部顧問が学力の維持向上を意識することが必要である。そのために成績高等部(特別進学科)をどう発展させるかが鍵となる。
- ・「キャリアデザインタイム」の充実・成人年齢引下げに伴う意識啓発、進路指導部主催の進路ガイダンスとの連携。
- ・進路指導部と第3学年連携の強化・国公立大学合格増、私立大大学一般試験対応の充実、高い資格を有した生徒を事務職に送り出すこと
- ・基礎学力要請・トトレ及び朝読書の時間の充実
- ・優しく思いやりのある心の育成・不登校傾向の生徒の学級復帰支援、SNS等の問題事案へ対応、人権尊重意識の醸成
- ・生徒・職員一体となった学校づくり・校則の見直し(学校の規律を保ちながら生徒の意見を反映させていく)